

# McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

7

マクラーレン ホンダ  
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを  
内部機構まで完全再現！



**McLaren**  
Manufactured under licence from  
McLaren Racing Limited.

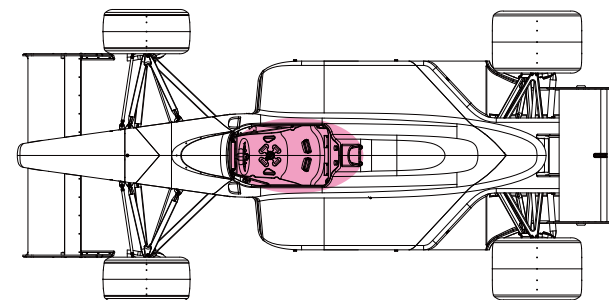
**HONDA**  
Official Licensed Product

**KYOSHO**  
THE FINEST RADIO CONTROL MODELS

**DeAgostini**  
COLLECTIBLES

# Mission 23 コクピットを組み立てる

今号は、コクピットを組み立てる。まずコクピットハウジング、シフトパネル、モノコックボトムプレート(後)、ハウジングプレート(前)を仮組みしてそれぞれの組み合わせを確認する。確認したら、コクピット内側となる部分にシフトノブやバランスレバーなどの小さなパーツを取り付けてから、コクピット本体を組み立てる。



## 今号のパーツ

① モノコックボトムプレート(後)



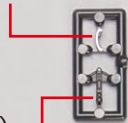
② ハウジングプレート(前)



⑦ コクピットハウジング



③ バランスレバー A



④ バランスレバー B



⑤ バランスレバーリンケージ



⑥ シフトノブ



⑧ シフトパネル



⑨ ビスG (2.0×6P-TP BK)×5



⑩ ビスJ (1.4×6P-M BK)×6



※ビスは予備1本を含む。

※①～⑧はHIPS(スチロール樹脂)製

## 今号で使用する道具

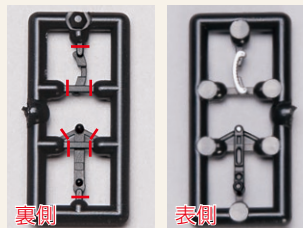
- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター
- ・ピンセット
- ・つまようじ
- ・カッティングマット
- ・定規
- ・シャープペンシルなど

## ポイント

事前にバランスレバーを切り離す

●今号で提供するバランスレバーAとBは細いパーツなので、ランナーから切り離す際に注意が必要だ。下記手順を参考に、組み立て作業の前に切り離しておこう。

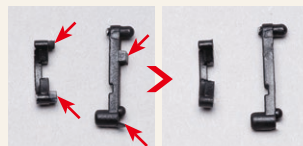
- ① ランナーパーツを裏向きに置き、赤線部分をカッターで切ってバランスレバーAとBをランナーから切り離す。



- ② 2つのパーツを表向きに置き、赤矢印で示したゲートの残りをカッターで取り除く。



- ③ 2つのパーツを横向きに置き、赤矢印で示したゲートの残りをカッターで取り除く。



本モデルのコクピット内側は、1:8のビッグスケールを活かして、シフトノブやスタビライザーを調整するレバーとその目盛りなどが精巧に再現されている。またコクピットは後の号でシートやシートベルト、ステアリング、ペダルや消火器などのパーツが装着され、さらに実車に近づいていく。

◀MP4/4のコクピット内側。

In Focus



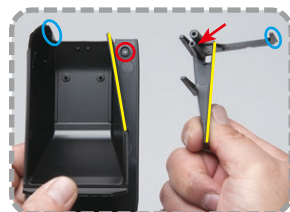
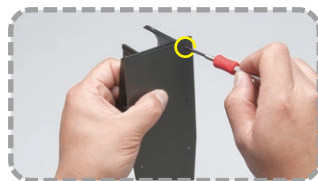
# 1 モノコックボトムプレート(後)、コクピットハウジング、シフトパネル、ハウジングプレート(前)の接着準備

## 《仮組み》

①モノコックボトムプレート(後)の赤丸で示した丸い枠の内側に、⑦コクピットハウジングの赤矢印で示した突起の先端を組み合わせる。



2つのパーツを組み合わせたまま、黄丸の穴に⑩ビスJを差し、プラスドライバー(00番)で軽く締めて仮留めする。



## 《仮組み》

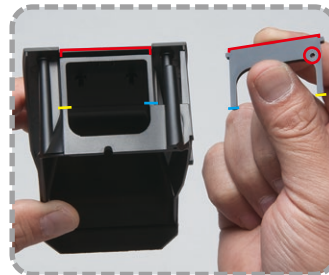
③シフトパネルの赤矢印の突起をモノコックボトムプレート(後)の赤丸の枠の内側に、黄線部分をコクピットハウジングの黄線部分と組み合わせてから、青丸部分を組み合わせる。



3つのパーツを組み合わせたまま、黄丸の穴にビスJを差し、プラスドライバー(00番)で軽く締め、コクピットをつくる。

## 《仮組み》

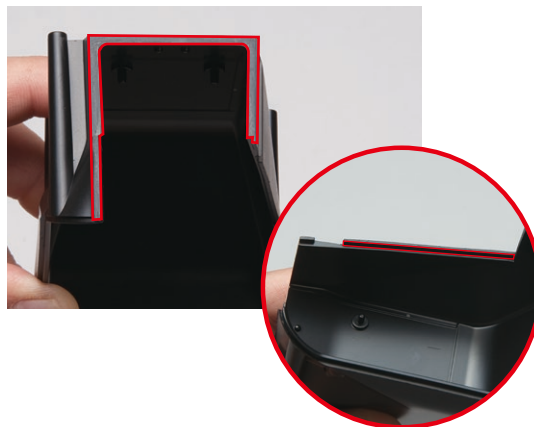
コクピットの赤線、青線、黄線の部分に、②ハウジングプレート(前)の同色の部分をはめ込む。このとき、ハウジングプレート(前)の赤丸で示した穴の位置に注意する。



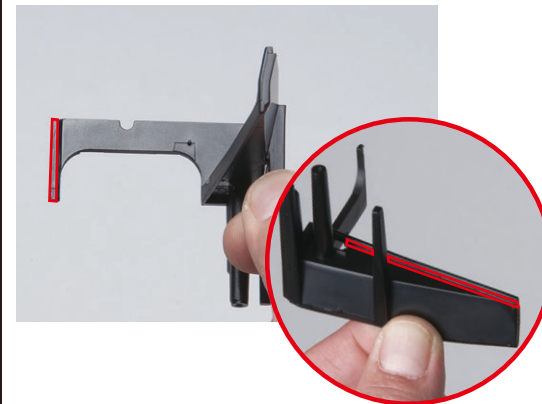
それぞれを組み合わせたまま、コクピットの内側にシャープペンシルを沿わせ、ハウジングプレート(前)の青色の点線の上に薄く線を引く。線を引いたらビスを抜き、コクピットを分解する。



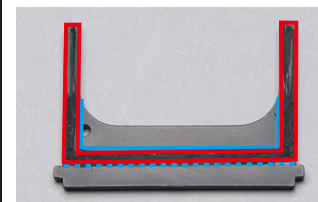
●コクピットハウジングの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



●シフトパネルの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



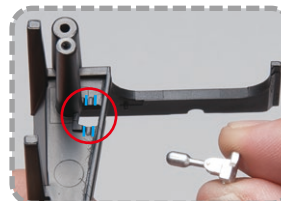
●ハウジングプレート(前)のシャープペンシルの線(青線)に加えて、定規とシャープペンシルを使って青色の点線上に線を引き、それらを参考にして赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



# 2 シフトパネルとシフトノブの接着準備

## 《仮組み》

⑥シフトノブは根もとの半円柱状の部分とシフトパネルの青線で示した溝を組み合わせ、赤丸で示した穴に写真のように差し込む。



NEXT STEP >>>

●シフトパネルとシフトノブの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



### 3 シフトパネルとシフトノブを接着する

●シフトパネルの塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにシフトノブと組み合わせて指で2~3分おさえる。



■シフトノブが穴の中心になるようにおさえる。

### 4 バランスレバーAとBを接着する ※細い部分の破損を防ぐため、仮組みはしない。

●③④ バランスレバー AとBは写真のように組み合わせて1つのバランスレバーとなるので確認しておく。



●バランスレバー Aをピンセットで持ち、切り欠き(赤矢印)につまようじで接着剤を少量塗って、バランスレバー Bと組み合わせて指で2~3分おさえる。

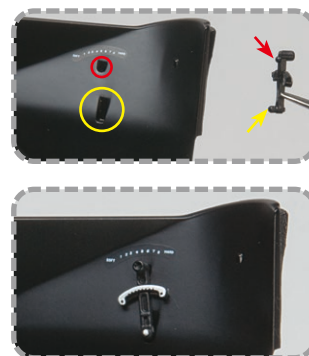


■パーツが破損しないように注意しながらおさえる。

### 5 コクピットハウジングとバランスレバーの接着準備

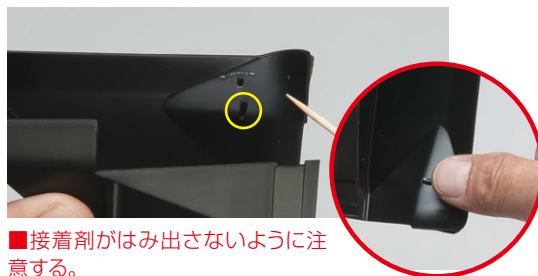
《仮組み》

バランスレバーの赤矢印で示した短い方の突起と黄矢印で示した長い突起を、それぞれコクピットハウジングの同じ色の丸で示した凹みと組み合わせる。



### 6 コクピットハウジングとバランスレバーを接着する

●コクピットハウジングの黄丸で示した凹みにつまようじで接着剤を少量塗り、仮組みしたようにバランスレバーと組み合わせて指で2~3分おさえる。



■接着剤がはみ出さないように注意する。

7

### コクピットハウジングとバランスレバーリンクージの接着準備

《仮組み》

コクピットハウジングの赤矢印で示した小さな突起に⑤ バランスレバーリンクージの赤丸で示した小さな凹みを組み合わせ、バランスレバーの黄矢印で示した小さな丸い凹みに、黄丸で示した小さな突起を組み合わせる。



8

### コクピットハウジングとバランスレバーリンクージを接着する

●バランスレバーリンクージの赤線で囲んだ部分に接着剤を塗り、仮組みしたようにコクピットハウジング、バランスレバーと組み合わせて指で2~3分おさえる。



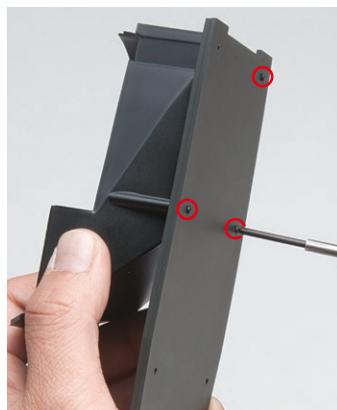
■接着剤がはみ出さないように注意する。



9

## コクピットを組み立てる

● ①で仮組みしたように、モノコックボトムプレート(後)とコクピットハウジングを組み合わせ、赤丸で示した3つの穴にビスJを差し、プラスドライバー(00番)で締めて固定する。



■ビスの締めすぎに注意する。

● シフトパネルの塗装をはがした部分(赤線)に接着剤を塗り、①で仮組みしたようにモノコックボトムプレート(後)、コクピットハウジングと組み合わせて指で2~3分おさえる。



■黄丸で示した部分は、接着面がずれないように注意しておさえる。



● モノコックボトムプレート(後)の赤丸で示した穴にビスJを差し、プラスドライバー(00番)でシフトパネルが固定するまで締める。その後それぞれのパーツが完全に接着するまで1時間ほどおく。これでコクピットができてあがる。



10

## コクピットにハウジングプレート(前)を接着する

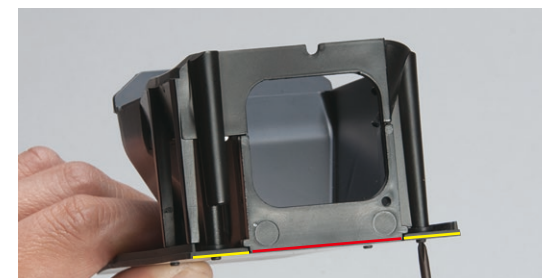
● コクピットの赤丸で示した2本のビスを少し緩める。



● コクピットの赤線で囲んだ部分に接着剤を塗り、①で仮組みしたようにハウジングプレート(前)と組み合わせて指で2~3分おさえる。



● 前の工程で緩めた2本のビスを、赤線と黄線で示した部分が一直線になるように締める。完全に接着するまで1時間ほどおく。



■ビスを締めすぎると一直線にならないので注意する。

## 今号の完成

コクピットハウジング、シフトパネル、モノコックボトムプレート(後)、ハウジングプレート(前)が1つになり、コクピットが組み立てられた。その内側にはシフトノブ、バランスレバー、バランスレバーリンクージが装着された。



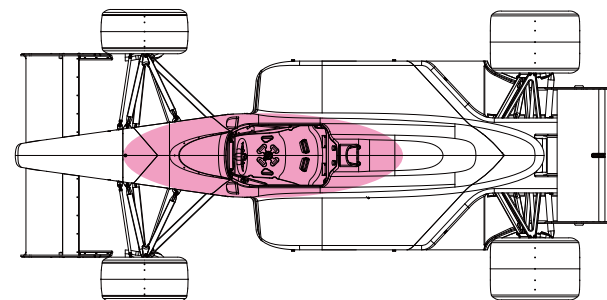
## 保管パーツ

今号で使用しなかった⑨ビスGと⑩ビスJの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



# Mission 24 モノコックに フロントサスペンションを取り付ける

今号は、モノコックにフロントサスペンションを取り付ける。まずショックアブソーバープレート(左前、右前)にフロントサスペンション(左、右)やスタビライザーなどを取り付けて、ショックスタビユニットを組み立てる。次にモノコックにモノコックフロントエンドプレートとショックスタビユニットを取り付ける。



## 今号のパーツ

① モノコックフロントエンドプレート



② ステアリングガードプレート



③ スタビライザー



④ ショックアブソーバープレート(左前)



⑤ ショックアブソーバープレート(右前)



⑥ 消火器(上) ダイキャスト製



⑦ 消火器(下) ダイキャスト製



※①～⑤はHIPS(スチロール樹脂)製

## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー(00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター ・カッティングマット
- ・マスキングテープ ・ピンセット

## 用意するもの

- ・フロントサスペンション(左) ※21号で組み立て
- ・フロントサスペンション(右) ※22号で組み立て
- ・サスペンションリンケージ×2 ※21号と22号で提供
- ・ビスJ(1.4×6P-M BK)×2 ※21号と22号で提供
- ・モノコック ※22号で組み立て

## ポイント

サスペンションジョイントの向きを確認する

●左右のフロントサスペンションの下部に接着してあるサスペンションジョイント(黄線の囲み)は、後の号でブルロッドを取り付ける部分になる。

赤矢印の突起と、黄矢印の突起の向きを参考にして、サスペンションジョイントがフロントサスペンションに正しく取り付けられていることを確認しておこう。



今号の組み立てでフロントサスペンションやサスペンションリンケージを取り付けるショックアブソーバープレートは、内側の面がコクピット前部の内装となる。また本モデルのコクピットは、前号で組み立てたシフトノブやバランスレバーだけでなく、奥の見えにくい部分にあるスタビライザーまで再現されている。

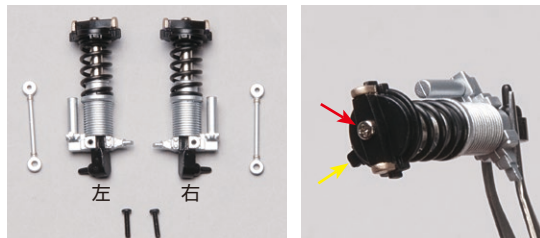
◀MP4/4のコクピット内側、スタビライザー周辺。

In Focus

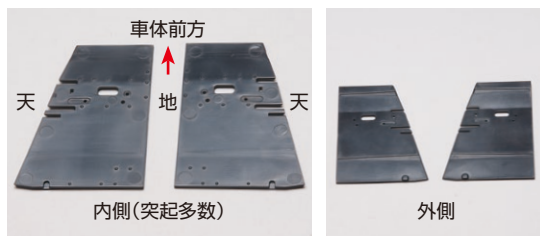


# 1 ショックアブソーバープレート(左前、右前)にサスペンションリンケージとフロントサスペンション(左、右)を取り付ける。

● 21号と22号で組み立てたフロントサスペンション(左、右)と提供したサスペンションリンケージ×2、ビスJ×2を用意する。フロントサスペンションは左右を確認し、赤矢印のビスをプラスドライバー(00番)で少し緩め、黄矢印の突起が回転できるようにしておく。



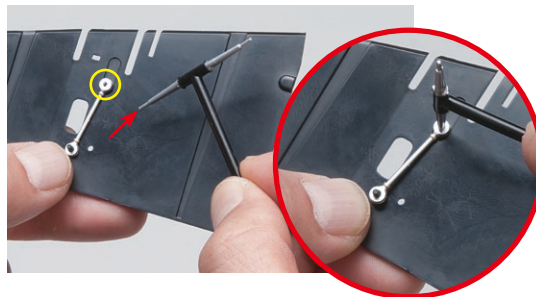
● ④⑤ ショックアブソーバープレート(左前、右前)の内側と外側の面、前後と天地を確認し、1センチ程度のマスキングテープを2本用意する。



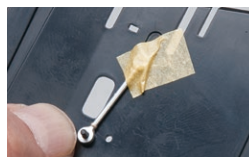
● ショックアブソーバープレート(左前)外側の赤丸の穴に、ビスJを内側から差し込んで指でおさえ、そのビスにサスペンションリンケージの大きい方の穴を差し込む。小さい方の穴は、次の工程で黄丸の穴と重ねるので確認しておく。



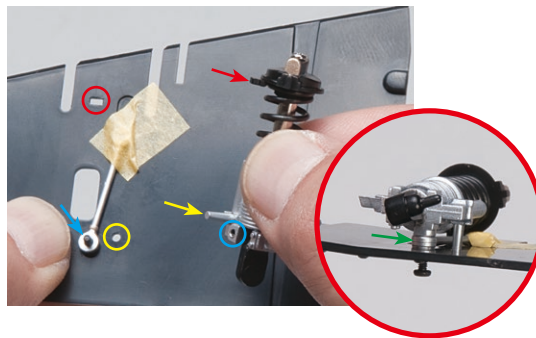
● 前の工程で確認した穴とサスペンションリンケージの小さい方の穴を黄丸で示したように重ね、⑥スタビライザーの銀色の突起(赤矢印)を差してサスペンションリンケージの位置を確定する。



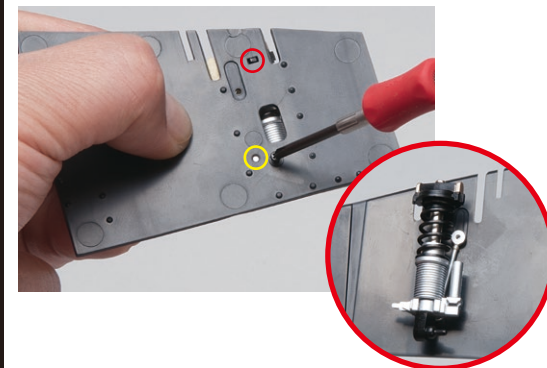
● サスペンションリンケージが動かないように指で押さえながらスタビライザーを抜き、用意したマスキングテープ1本をピンセットで写真のように貼ってサスペンションリンケージを固定する。



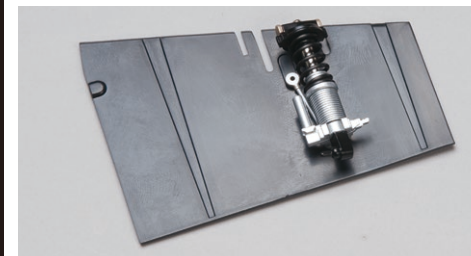
● ショックアブソーバープレート(左前)の赤丸の穴にはフロントサスペンション(左)の赤矢印の突起を、黄丸の穴には黄矢印の突起を差し込む。同時に、差してあるビス(青矢印)を青丸の穴に差し込み、プラスドライバー(00番)で仮留めする。ビスがサスペンションリンケージの穴を通してフロントサスペンション(左)を留めていることを確認しておく(緑矢印)。



● ショックアブソーバープレート(左前)内側の赤丸と黄丸の穴にフロントサスペンション(左)の突起が差し込まれていることを確認し、仮留めしたビスを締めてそれぞれのパーツを固定する。固定したらサスペンションリンケージに貼ってあるマスキングテープをはがす。

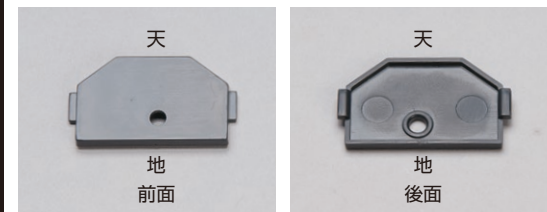


● 左側と同様の作業をして、ショックアブソーバープレート(右前)にもサスペンションリンケージとフロントサスペンション(右)を取り付ける。



# 2 ショックアブソーバープレート(左前)とステアリングガードプレートの接着準備

● ② ステアリングガードプレート(前後)の前後と天地を確認する。



NEXT STEP >>>

3

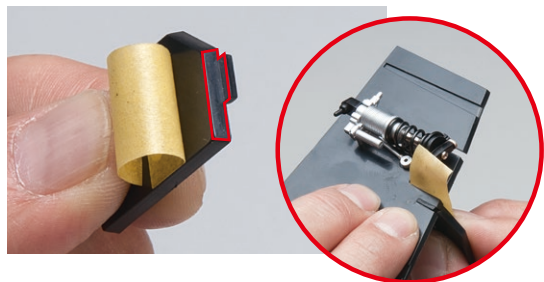
### ショックアブソーバプレート(左前)とステアリングガードプレートを接着する

● ステアリングガードプレート前面に用意したマスキングテープを写真のように貼る。



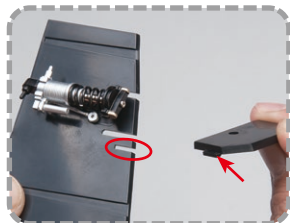
■ 赤線で示した部分に沿うように貼る。

● マスキングテープを少しめくり、赤線で囲んだ部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。マスキングテープを別の溝に通しながら、仮組みしたようにショックアブソーバプレート(左前)と組み合わせて指で2~3分おさえる。



### 《仮組み》

ショックアブソーバプレート(左前)の赤丸で示した溝に、ステアリングガードプレートの赤矢印で示した突起を差し込んで組み合わせる。仮組みしたら3センチ程度のマスキングテープを1本用意する。

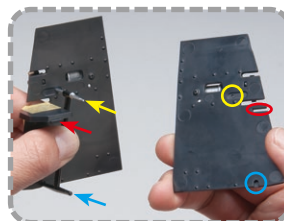
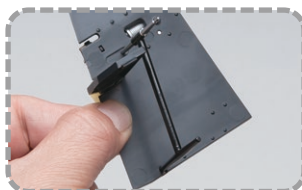
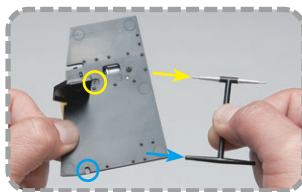


4

### ショックアブソーバプレート(左前)とショックアブソーバプレート(右前)の接着準備

#### 《仮組み》

ショックアブソーバプレート(左前)内側の黄丸の穴にスタビライザーの黄矢印の突起を差し込み、青丸の凹みに青矢印の突起を組み合わせる。



パーツを組み合わせたまま、ショックアブソーバプレート(右前)内側の黄丸の穴にスタビライザーの黄矢印の突起を差し、青丸の凹みに青矢印の突起を組み合わせ、ステアリングガードプレートの赤矢印の突起を赤丸の溝と組み合わせる。仮組みしたら3センチ程度のマスキングテープをもう1本用意する。

● マスキングテープでステアリングガードプレートとショックアブソーバプレート(左前)を写真のように固定し、完全に接着するまで1時間ほどおく。



5

### ショックアブソーバプレート(左前)とショックアブソーバプレート(右前)を接着する

● ショックアブソーバプレート(左前)に接着されたステアリングガードプレートに、2本目のマスキングテープを写真のように貼る。



■ 赤線で示した部分に沿うように貼る。

● 2本目のマスキングテープを少しめくり、赤線で囲んだ部分に接着剤を塗る。仮組みしたようにスタビライザー、ショックアブソーバプレート(右前)と組み合わせて指で2~3分おさえる。



■ スタビライザーには力がかからないように注意しておさえる。

● 新しいマスキングテープでステアリングガードプレートとショックアブソーバプレート(右前)を写真のように固定する。1時間ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをすべてはがす。これでショックスタビユニットができあがった。

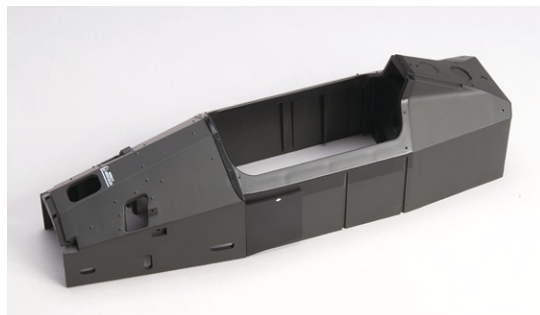




6

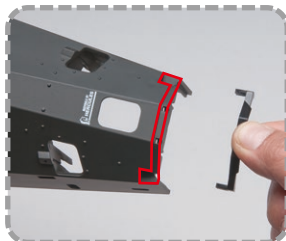
## モノコックとモノコックフロントエンドプレートの接着準備

- 22号で組み立てたモノコックを用意する。



### 《仮組み》

モノコック先端の赤線で囲んだ部分と①モノコックフロントエンドプレートの形状を合わせて組み合わせる。仮組みしたら3センチ程度のマスキングテープを2本用意する。



- モノコックフロントエンドプレートの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。赤矢印で示した突起の塗装ははがさない。



7

- モノコックの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



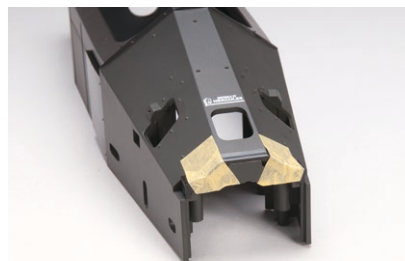
7

## モノコックとモノコックフロントエンドプレートを接着する

- モノコックの赤線で示した部分に接着剤を塗り、仮組みしたようにモノコックフロントエンドプレートと組み合わせて指で2~3分おさえる。



- 用意したマスキングテープでモノコックとモノコックフロントエンドプレートを写真のように固定する。



8

## モノコックにショックスタビユニットを取り付ける

- モノコック先端内側の赤矢印と青矢印の部分にショックスタビユニットの赤線と青線の溝(左右両面)を、黄丸部分にフロントサスペンションを組み合わせて、ショックスタビユニットをモノコックの奥まで差し込む。1時間ほどおき、7で取り付けしたモノコックフロントエンドプレートが完全に接着したら貼ってあるマスキングテープをはがす。



### 今号の完成

左右のフロントサスペンションやスタビライザーなどが装着されたショックスタビユニットと、モノコックフロントエンドプレートがモノコックに取り付けられた。



### 保管パーツ

- 6 7 消火器(上、下)は後の号で組み立てるまで大切に保管しておこう。



# Mission 25 ステアリングギアボックスを組み立てる

今号は、ステアリングギアボックス(上、中、下)を組み立てて1つのパーツをつくり、後の号でモノコックに取り付ける準備をする。次にモノコックにモノコックインナープレートとモノコックパーテーション(A、B)を取り付けて、モノコック後部を完成に近づける。

## 今号のパーツ

① ステアリングギアボックス(上)



② ステアリングギアボックス(中)



③ ステアリングギアボックス(下)



④ ステアリングラック



⑤ ステアリングシャフト ナイロン製



⑥ ステアリングラックギア



⑦ ステアリングピニオンギア



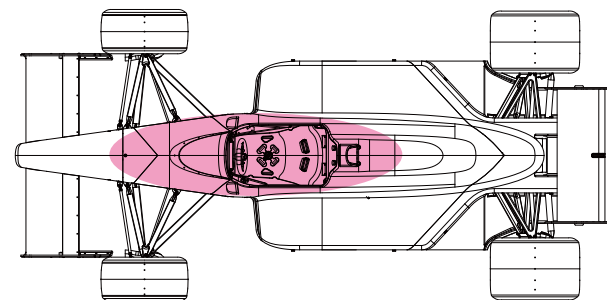
⑧ ステアリングギアガイド



⑨ モノコックフロントプレート



※ ①～④ ⑥～⑨はHIPS(スチロール樹脂)製



## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番) ※22号で提供
- ・カッター ・カッティングマット
- ・マスキングテープ

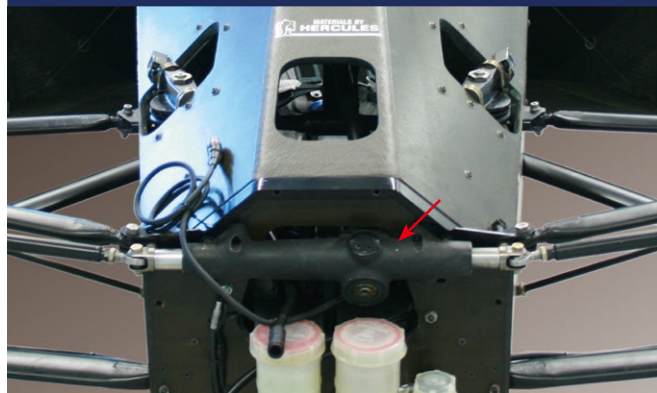
## 用意するもの

- ・モノコックパーテーション(A) ※17号で提供
- ・モノコックパーテーション(B) ※17号で提供
- ・モノコックインナープレート ※21号で組み立て
- ・ビスF (3.0×35C-M BK)×1 ※21号で提供
- ・ビスG (2.0×6P-TP BK)×1 ※21号で提供
- ・ビスJ (1.4×6P-M BK)×2 ※21号で提供
- ・ワッシャーA (1.5×3.0×0.3 BK)×2 ※21号で提供
- ・モノコック ※24号で組み立て

## ポイント

### モノコック後部のビス留め

●今号の組み立てでは、モノコック後部にビス留めする。赤丸で示した部分は、凹みの奥にビス穴があるため、22号で提供した軸が細いプラスドライバー(0番)を使用する。



ステアリングギアボックスは、ドライバーによるステアリングの回転操作を左右の動きに変換して、舵となるフロントタイヤに伝える装置だ。

本モデルのステアリングギアボックスは、上下の小さな丸いパーツが再現され、形状や表面の質感にこだわったつくりになっている。

◀MP4/4のモノコック最前部。赤矢印の部分がステアリングギアボックス。

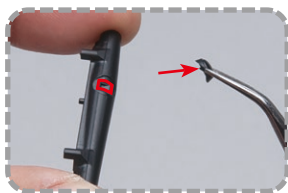
In Focus



## 1 ステアリングギアボックス(上)とステアリングギアボックス(中)の接着準備

### 《仮組み》

2センチ程度のマスキングテープを1本用意する。②ステアリングギアボックス(中)の赤線で囲んだ凹みと①ステアリングギアボックス(上)の赤矢印の小さな突起の形状を合わせ、しっかりと組み合わせる。

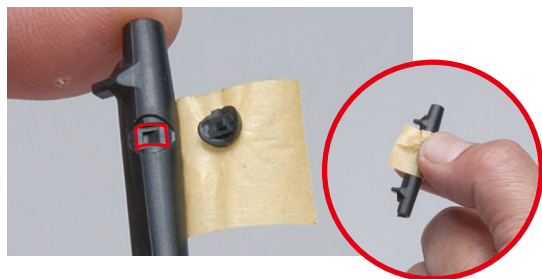


2つのパーツがずれないように、用意したマスキングテープで固定する。



## 2 ステアリングギアボックス(上)とステアリングギアボックス(中)を接着する

● 固定したマスキングテープを写真のようにめくり、赤線で囲んだ部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。マスキングテープを元に戻しながら再び組み合わせ、指で2~3分おさえる。1時間ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをはがす。

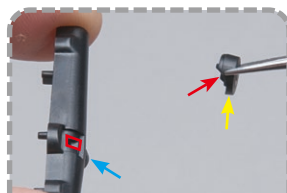


## 3 ステアリングギアボックス(中)とステアリングギアボックス(下)の接着準備

### 《仮組み》

ステアリングギアボックス(中)の赤線で囲んだ凹みと③ステアリングギアボックス(下)の赤矢印の小さな突起の形状を合わせ、しっかりと組み合わせる。黄矢印で示した薄い部分を、接着されているステアリングギアボックス(上)(青矢印)のほうに向けて組み合わせやすい。

指でおさえてしっかりと組み合うことを確認する。



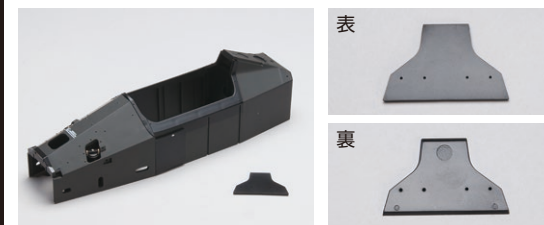
## 4 ステアリングギアボックス(中)とステアリングギアボックス(下)を接着する

● ステアリングギアボックス(中)の赤線で囲んだ部分に接着剤を塗り、仮組みしたようにステアリングギアボックス(下)を組み合わせ、指で2~3分おさえる。その後完全に接着するまで1時間ほどおく。



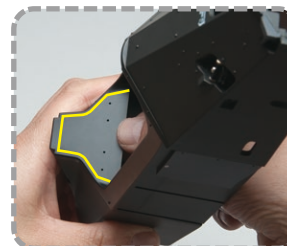
## 5 モノコックとモノコックパーテーション(A)の接着準備

● 17号で提供したモノコックパーテーション(A)と24号で組み立てたモノコックを用意する。モノコックパーテーション(A)は写真を参考に表と裏を確認する。



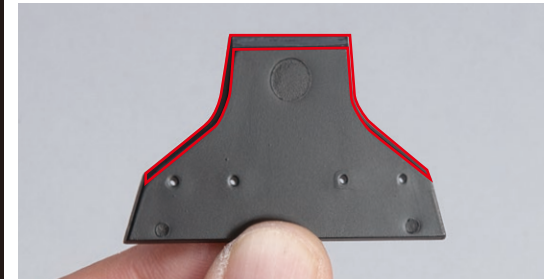
### 《仮組み》

モノコックパーテーション(A)を表に向け、モノコックの赤線で示した部分と形状を合わせて、写真のように組み合わせる。仮組みしたら、マスキングテープを8センチ程度1本と3センチ程度2本用意する。



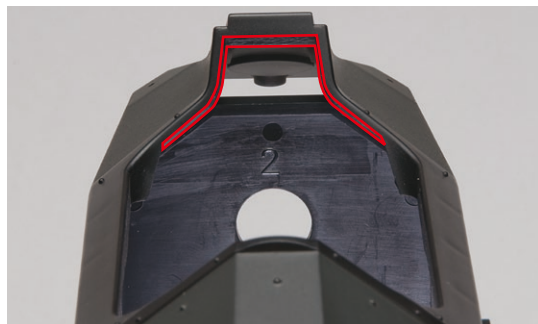
■ パーツの合わせ目(黄線)がずれないように組み合わせる。

● モノコックパーテーション(A)の裏面の赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



NEXT STEP >>>

- モノコックの内側の赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



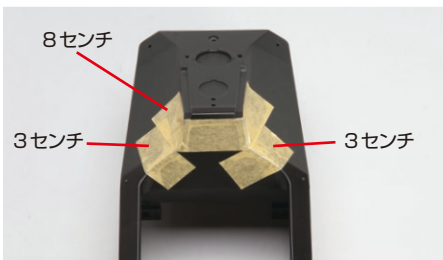
## 6 モノコックとモノコックパーテーション(A)を接着する

- モノコックの塗装をはがした部分に接着剤を塗り、仮組みしたようにモノコックパーテーション(A)と組み合わせて、指で2~3分おさえる。



- パーツの合わせ目がずれないようにおさえる。

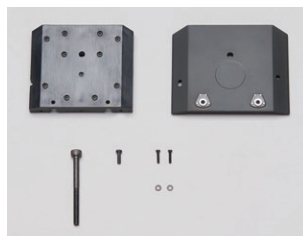
- 用意したマスキングテープで2つのパーツを写真のように固定する。1時間ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをはがす。



## 7

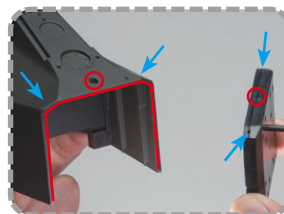
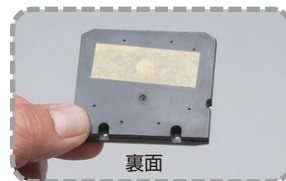
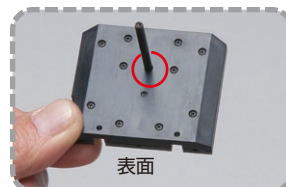
## モノコック、モノコックインナープレート、モノコックパーテーション(B)の接着準備

- 17号で提供したモノコックパーテーション(B)、21号で組み立てたモノコックインナープレートと提供したビスF×1、ビスG×1、ビスJ×2、ワッシャーA×2に、4センチ程度のマスキングテープを1本用意する。



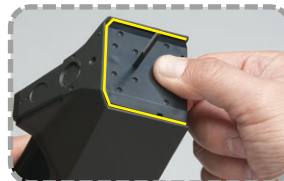
### 《仮組み》

モノコックインナープレートの赤丸で示した穴に、裏面からビスFを差し、用意したマスキングテープで裏面の穴をふさいで、ビスが抜け落ちないようにする。



### 《仮組み》

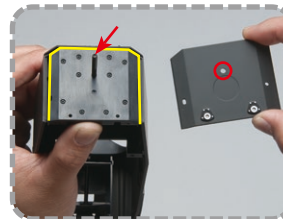
モノコックの赤線部分の内側にモノコックインナープレートを、赤丸の穴同士が重なるように組み合わせる。このとき、青矢印の穴同士も重なってビス穴となる。



すき間ができる黄線部分には、次の工程でモノコックパーテーション(B)が組み合わされる。

### 《仮組み》

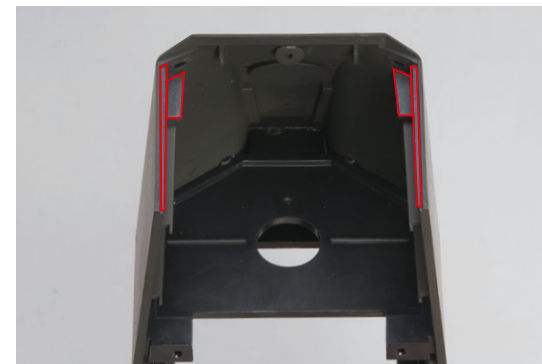
モノコックパーテーション(B)の赤丸の穴に赤矢印のビスFを入れながら、黄線部分と形状を合わせて組み合わせる。



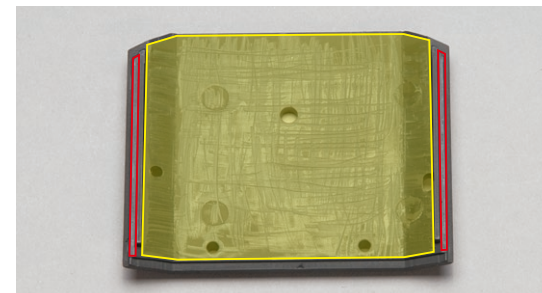
モノコックインナープレートとビスFは組み合わせたままにしておき、10センチ程度のマスキングテープを2本用意する。



- モノコックの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



- モノコックパーテーション(B)裏面の赤線と黄線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

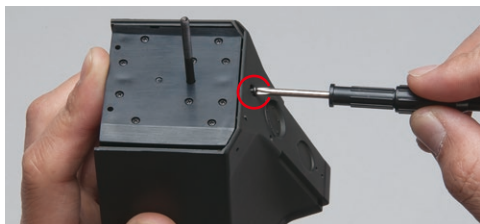




8

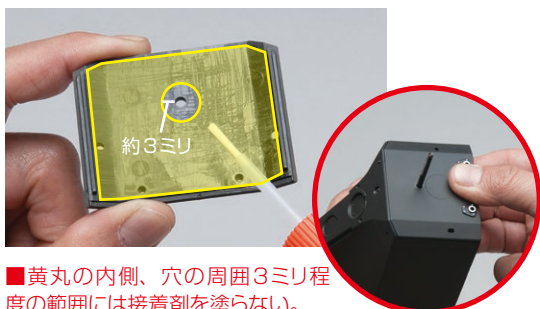
## モノコック、モノコックインナープレート、モノコックパーテーション (B) を接着する

●モノコックとモノコックインナープレートを仮組みしたように組み合わせ、赤丸で示した穴にビスGを差し、プラスドライバー (0番) で締めて仮留めする。



■22号で提供したプラスドライバー (0番) を使用する。

●モノコックパーテーション (B) の黄線で囲んだ部分 (黄丸の外側) に接着剤を塗り、仮組みしたようにモノコック、モノコックインナープレートと組み合わせて、必ず3分は指でしっかりとおさえる。



■黄丸の内側、穴の周囲3ミリ程度の範囲には接着剤を塗らない。

●用意したマスキングテープ1本で写真のように固定する。1時間ほどおき、完全に接着したらマスキングテープを全てはがし、ビスGとビスFを抜いてモノコックインナープレートが接着されたモノコックパーテーション (B) を取り外す。



●ビスJ×2とワッシャー A×2を写真のように組み合わせる。



●モノコックの赤線で囲んだ部分に接着剤を塗り、再びモノコックパーテーション (B) と組み合わせて、必ず3分は指でしっかりとおさえる。



■モノコックパーテーション (B) は、後の号でエンジンが接続されるので、特にしっかりと接着する。

●モノコックの赤丸の穴にビスGを差し、プラスドライバー (0番) で締めて固定する。黄丸の穴にはワッシャー A と組み合わせたビスJを差し、プラスドライバー (00番) で締めて仮留めする。



■ビスJはビス穴に対して直角ではなく、やや斜めに差すと締めやすい。仮留めなので締めすぎに注意する。

●用意したもう1本のマスキングテープで写真のように固定する。1時間ほどおき、完全に接着したらマスキングテープをはがす。



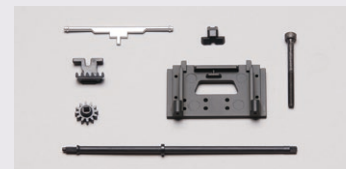
## 今号の完成

ステアリングギアボックス (上、中、下) が組み立てられて、1つのステアリングギアボックスができあがった。またモノコック後部には、モノコックパーテーション (A、B) とモノコックインナープレートが取り付けられた。



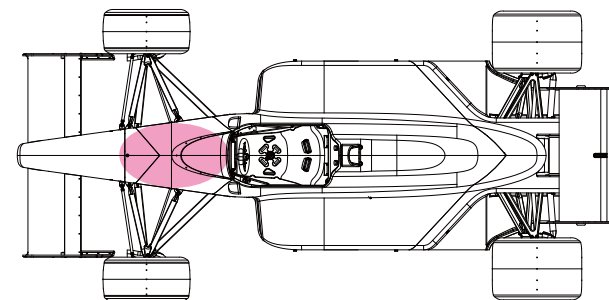
## 保管パーツ

今号で使用しなかった④ステアリングラック、⑤ステアリングシャフト、⑥ステアリングラックギア、⑦ステアリングピニオンギア、⑧ステアリングギアガイド、⑨モノコックフロントプレートと、パーツの位置合わせのみに使用したビスFは、後の号で組み立てるまで大切に保管しておこう。



# Mission 26 コクピットを組み立てる②

今号は、ブレーキとクラッチのマスターシリンダーとコクピット前部の内装や外装を組み立てる。まずブレーキとクラッチのマスターシリンダーにそれぞれリザーバタンクを取り付ける。次にフロントアンダーボディにスキッド、ペダル、消火器を装着し、後の号でモノコックに取り付ける準備をする。



## 今号のパーツ

① フロントアンダーボディ

② ブレーキリザーバタンク×2

③ クラッチリザーバタンク

④ ブレーキマスターシリンダー×2

⑤ クラッチマスターシリンダー

⑥ ペダル

⑦ スキッド×2 ダイキャスト製

⑧ ノーズコーンブラケット×4 メタル製

⑨ ビスA (1.0×4P-M SiL)×3

⑩ ビスJ (1.4×6P-M BK)×9

⑪ ビスM (1.4×4P-M SiL)×3

⑫ ビスN (1.4×4P-M BK)×5

⑬ ビスP (1.4×6P-M SiL)×3

※ビスは予備1個を含む。

※①～⑥はHIPS (スチロール樹脂)製

## 今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤
- ・プラスドライバー (00番)  
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・つまようじ
- ・シャープペンシルなど

## 用意するもの

- ・消火器(上) ※24号で提供
- ・消火器(下) ※24号で提供

## ポイント

事前にノーズコーンブラケットとビスを整理する

●ノーズコーンブラケットは今号の組み立てに使用しない。事前に保管用のビニール袋を用意し、号数とパーツ名を明記しておくとい。同様に、今号ではじめて提供されるビスM、N、Pもそれぞれビニール袋を用意して、整理しておくで見分けやすく紛失も防げる。



MP4/4のスロットル、ブレーキ、クラッチの各ペダルは、ドライバーの好みによって配置や形状が異なる。本モデルはセナ仕様のペダルを忠実に再現。実車のペダルをもとに、それぞれの形状だけでなく、滑り止めの穴の数などディテールにこだわった作りになっている。

◀実車から取り外されたセナのペダル。テープには「MP4/4 (SENNA)」と記されている。

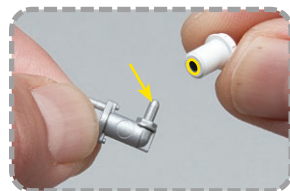
In Focus



## 1 マスターシリンダーとリザーバタンクの接着準備

### 《仮組み》

④ ブレーキマスターシリンダーの二股の突起(赤矢印)に、② ブレーキリザーバタンクの赤丸の穴を差し込んで組み合わせる。

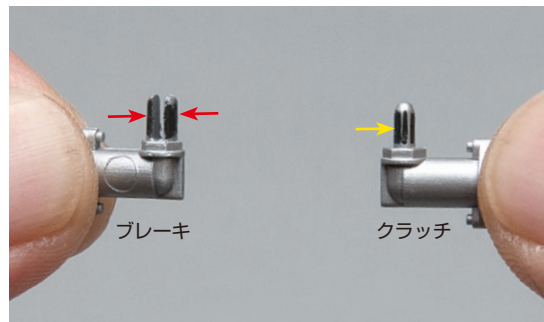


### 《仮組み》

⑤ クラッチマスターシリンダーの黄矢印で示した突起に、③ クラッチリザーバタンクの黄丸の穴を差し込んで組み合わせる。

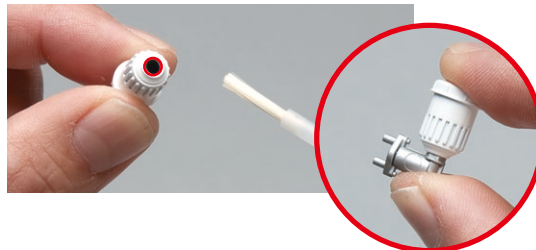


● ブレーキマスターシリンダー×2とクラッチマスターシリンダーの突起円周部(赤矢印と黄矢印)の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

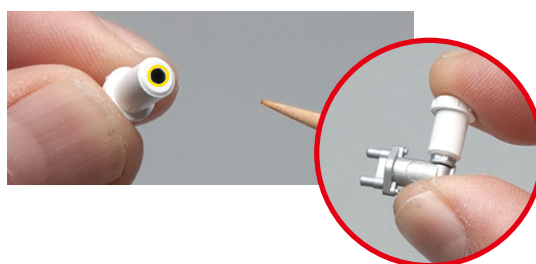


## 2 マスターシリンダーにリザーバタンクを接着する

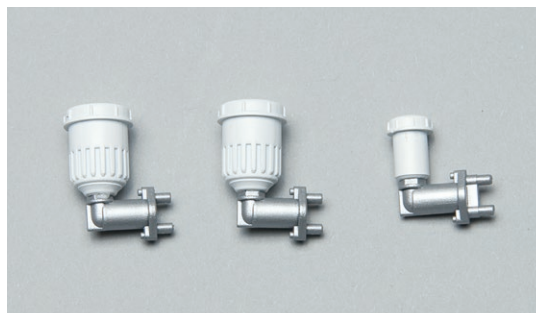
● ブレーキリザーバタンクの赤丸で示した穴の内側にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにブレーキマスターシリンダーと組み合わせ、指で2~3分おさえる。同様にもう1つのブレーキマスターシリンダーにもブレーキリザーバタンクを接着する。



● クラッチリザーバタンクの黄丸で示した穴の内側につまようじでプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにクラッチマスターシリンダーと組み合わせ、指で2~3分おさえる。



● それぞれが完全に接着するまで1時間ほどおく。



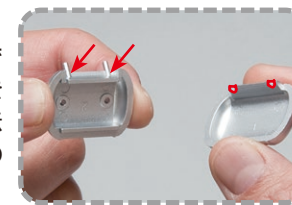
## 3 消火器(上)と消火器(下)の接着準備

● 24号で提供した消火器(上、下)を用意する。



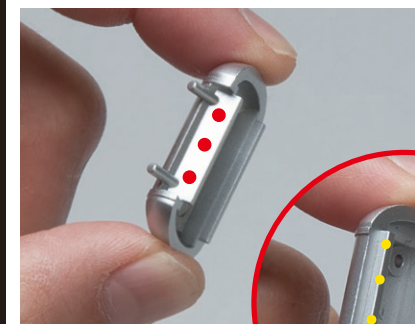
### 《仮組み》

消火器(下)の赤矢印で示した突起の根もとを消火器(上)の赤線で示した溝にはめ、写真のように組み合わせる。

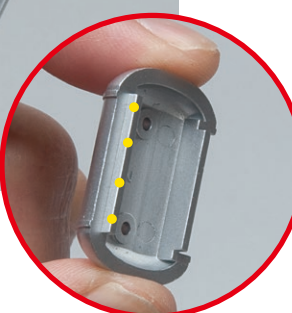


## 4 消火器(上)と消火器(下)を接着する

● 消火器(下)の赤点部分とその反対側の黄点部分に瞬間接着剤を塗る。黄点部分は角に塗る。



■ 瞬間接着剤は塗りすぎると白化する場合がありますので注意する。

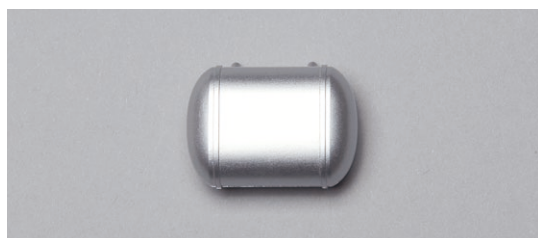


NEXT STEP >>>

- 仮組みしたように消火器(上)と消火器(下)を組み合わせて、完全に接着するまで1分ほどおさえる。

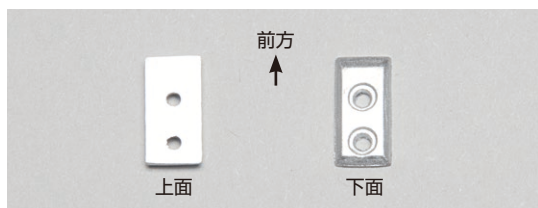
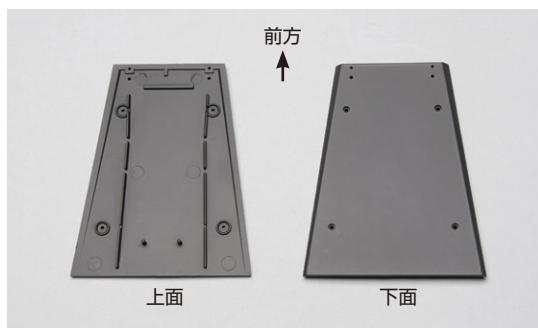


- 消火器ができた。

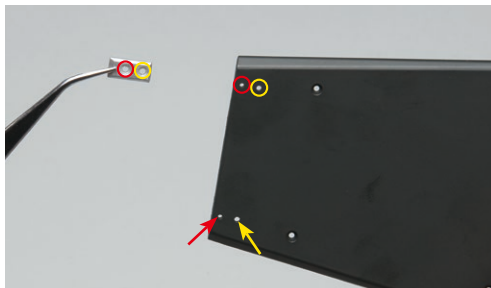


## 5 フロントアンダーボディにスキッドを取り付ける。

- ① フロントアンダーボディと⑦ スキッドの前後と上下の面を確認する。



- フロントアンダーボディ下面前方の赤丸と黄丸で示した穴と、スキッドの同色の穴が重なってビス穴となるので確認する。同様に、赤矢印と黄矢印で示した穴にも、もう1つのスキッドを取り付ける。



- スキッド下面の黄丸の穴に⑬ビスPを差し組み合わせ、フロントアンダーボディ下面の黄丸の穴に位置合わせとして差し込み、赤丸のビス穴を重ねる。

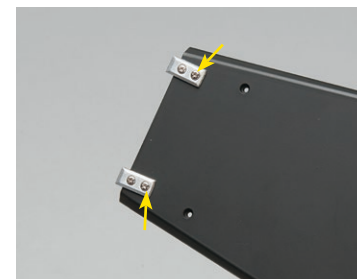


- 位置合わせのビスPがフロントアンダーボディに差し込みにくい場合は、プラスドライバー (00番)を使うとよい。

- 赤丸のビス穴にピンセットなどで⑪ビスMを差し、プラスドライバー (00番)で締める。



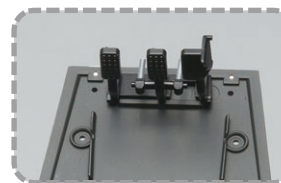
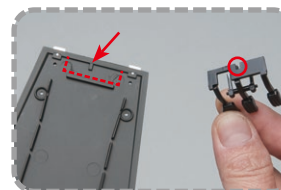
- 同様の作業をして、もう一方の穴にもスキッドを取り付ける。2つのスキッドを取り付けたら、ビスP (黄矢印)は抜いておく。



## 6 フロントアンダーボディとペダル、消火器の接着準備

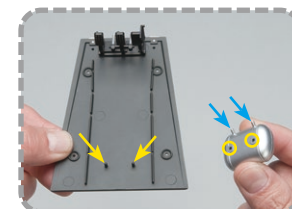
### 《仮組み》

フロントアンダーボディ上面の赤矢印で示した突起と赤丸の溝を組み合わせ、赤色の点線で示した部分に⑥ペダルをはめ込む。



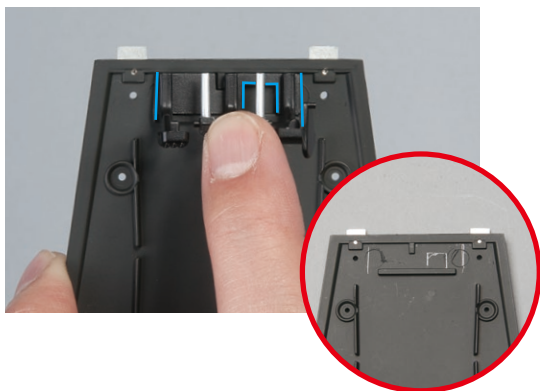
### 《仮組み》

消火器の青矢印で示した突起側を前方にして、黄丸の穴をフロントアンダーボディの黄矢印の突起に差し込んで組み合わせる。

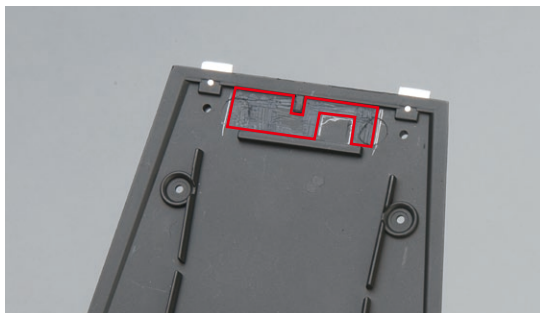




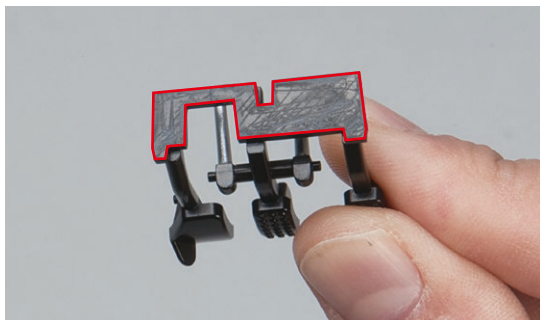
- フロントアンダーボディとペダルを仮組みしたように組み合わせる。ペダルの外形に沿って、フロントアンダーボディの青線上にシャープペンシルで薄く線を引く。



- シャープペンシルの線を目安に、フロントアンダーボディの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のないう部分ではがす。



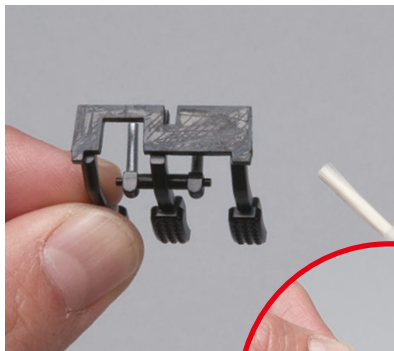
- ペダルの赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のないう部分ではがす。



# 7

## フロントアンダーボディにペダルと消火器を接着する

- ペダルの塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにフロントアンダーボディと組み合わせて指で2~3分おさえる。



- ペダルの細い部分を破損しないよう注意しておさえる。

- 消火器の赤点で示した部分に瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにフロントアンダーボディと組み合わせて、完全に接着するまで1分ほどおさえる。



- フロントアンダーボディとペダルが完全に接着するまで1時間ほどおく。



## 今号の完成

ブレーキマスターシリンダーとクラッチマスターシリンダーが完成した。フロントアンダーボディにはスキッドとペダル、消火器が取り付けられた。



## 保管パーツ

今号で使用しなかった⑧ノーズコーンブラケット、⑨ビスA、⑩ビスJ、⑫ビスNと、パーツの位置合わせのみに使用した⑬ビスPは紛失しないよう大切に保管しておこう。

